

困らせてはいかんと考えた

二月二十五日 火曜日 困らせてはいかんと考えた
起床六時半。

昨晩から雪で、観月橋を渡る時、道に積もった雪が、人に踏まれ、圧搾され、縮まり、つるつる滑る為、足が不安定だった。

「こんなところで、スッテン・コロリンしたら、さぞかし、かっこ悪いもんだろうなあ。」
と思いつつ、慎重に、はじめは、「石橋をたたき」様に歩いた。

しばらくして、慣れて来て、普通に前を向いた。そして、「雪景色もまんざらじゃないなあ。」と、思いながら、伏見城の方を見上げた。それに、気が取られ、足が、つるつると、滑りそうになった。

ああ、危ない、危ない。
「上を向いた歩こう」という歌があるが、今の僕は下を向いて歩こうだ。

慎重に、慎重に、足元を良く見て歩こう。足元をよく見て、下をしっかり見てから、まわりや、上を向いて歩こうだ！

雪で白くなった桃山のでっぺんに君臨する伏見城が、雪化粧してきれいだった。